

東北再生可能エネルギー 利活用大賞受賞

ユナイテッドリニューアブルエナジー 「秋田産電力」の取り組み高く評価

木質系バイオマス発電
事業に取り組むユナイテ
ッドリニューアブルエナ

ジー(秋田市、平野久貴社長、018・8338・4884)が、東北経済産業局の16年度「東北再生可能エネルギー利活用大賞」を受賞した。回賞は東北地域におけるCO₂の排出削減を加速するため、再生可能エネルギーを活用した発電、熱利用および燃料製造事業の実施、発電等の設備導入などの地域的取り組み事例を表彰するもの。7日仙台市太白区文化センターで表彰式が行われ、田川和幸東北経済産業局長から平野社長に表彰状が贈られた。

同社は人口減少や林業の低迷が続く秋田県の活力を向上させ、地方創生に貢献するため、県内から発生する未利用材を主な燃料とする木質バイオマス発電事業を昨年7月に開始した。主な燃料となる木質バイオマス(木質チップ)は、県の協力も得て県内全域に点在する大手素材生産事業者(兼林業者)7社と長期的なチップ供給契約を締結。年間約15万トンの安定的な調達が可能で体制を構築している。

発電事業により新規で25人を採用した他、協力・提携する林業者施設や運搬等と合わせ県内で約100人の新規雇用を創出。チップ供給契約を締結した事業者のほとんどが新たにチップを整

備し、未利用材の活用が林業の活性化に貢献している。また、地元秋田市が取り組む「次世代エネルギーパーク」と連携した見学者の受け入れを行い、見学者には市内の福祉施設の協力で製作した記念品を配布。徴収した見学料は全額市内の桜の再生を目的としたファンドに寄付している。こうした「秋田産電力」による地方創生の取り組みが高く評価され、今回の受賞となった。



表彰を受ける平野社長(右)